

□連載小説 〈最終回〉

# キリシタンの墓

小山 牧子

え・石阪 春生

## 燃える海 断章 6



古い寺は、海からのオレンジの光の中に黒々と静まっていた。建物とその周囲をふちどる樹木のまわりにみちる光の色は、決して海の果てからさしてくる暁の色ではない。それは、神戸港内で炎上を続ける大型タンカーからの不吉な出来事を伝えるただならぬ光であった。寺のある街のあたりに、すでに強いガスの臭いが流れている。

願成寺への曲り角になっている上沢の車道で、佳を車から降ろした裕作は、そのままフルスピードでオレンジの光の彼方へ、厚いとばりをかきわけて入るように走り去った。

その瞬間が、父と娘の今生の別れとなるかも知れぬという人間らしい感傷の一切をさしはさむ余地を許さぬ、

あらずじ 二年前短期大学を卒業した佳は、母であり歌人である蘭子との生活に思ひを感じた。ある日、佳は願成寺の墓地の暗がりであつた村重船長と名のる老人から自分の父村林裕作の過去を知る。その父が久しぶりに航海を終えて神戸に帰ってくるが、蘭子の冷たい態度に佳の心は揺れだつた。そんなある日、佳は蘭子の短歌が新聞に載っているのを見つけるが、まさしくそれは裕作の初恋の女性、故出佳子の短歌の空作であつた。思ひあまつた佳は歌誌「せせらぎ」主幹に密訴の手紙を書くがそのために蘭子は短歌界から抹殺され、ある日塩屋沖で蘭子の死体が見つかる。苦悩する佳と父との対話。ふと気づくと深夜の部屋に窓がバラ色に染まっていた。タンカーの火災を知つた裕作は身の危険も省みず、死を覚悟して港に出かける。

黒いくっきりとした、まるで彫像のようにきびしい横顔だけを佳の方にむけて……。

が、古寺の一室で佳をむかえた村重老人は、奇妙に生きいきとしていた。半年前、佳たち家族をゆさぶる発端を作つたこの老人とはじめての出会いのとき、その表情に動かしがたくあつたニヒリスティックな影はすっかり姿を消し、黙つて佳の涙まじりの話を聞く老人の時どき佳の顔を真直ぐに見つめてくる目には、壮年の男が持つ強い光と暖かさが宿つていたのであつた。

それにしても、あの早春の深夜、ボスのミスター・ヒギンズと二人、酒の酔いに力をかりてこの寺にまよい込むようにして入り込み、荒木村重にゆかりのキリシタンどうろうの前で村重老人の話を聞いて以来、なんとさま

さまざまな恐ろしい運命が佳の上に降りかかってきたことだろう。春、地の上にある草や木が一斉に萌えだし、花を咲かせる。海棠、雛菊、山吹、三色堇、チューリップ、菖蒲、薔薇、藤の花などが順繰りに咲く絢爛とした花の季節のあとに若葉が人間に似た悩ましい体臭を発散させ、やがて人々をグレイの壁に閉ざしてしまふ雨期がきた。春から夏へ、萌える季節の中では、人もまた常には考えられぬ激しい衝動的な行為に走ってしまうものなのであろうか。

が、すべてが最も悲劇的な結末で落着いたいま、あのとき佳が、この老人と出会わなかったら、あのとき由佳子の古い手記ノートを見つけたことができなかったら、あの雨期の終り、豪雨に閉ざされた館の一室で、佳が密訴の手紙を書かなかったらといった種類の仮設は、繰り言に過ぎない。しかし、佳には、この春から夏に起った一連の事件の陰に、やはり何か、人の力が及ばぬ巨大なもの、の意志が働いていたとおもえて仕方がない。

そして今宵、ただ一人の身寄りであり、最も佳が心を傾けていた父、裕作を佳のそばから奪い去った神戸港内での大型タンカーの火災の上にもまた、一連の意志が働いているとおもえてくる。

佳は、その人間に陰惨な運命をつきつけてくる不条理な何ものかに服従することはできないし、その不条理を前にして奇妙な心の動かせ方をした一人の男、父を理解することもできない。

「わたしには父がわからないのです。あの猛炎に包まれた船を前にして、父一人が運ぶ消火剤の量など、一匹の蟻がパンくずを運ぶほどの量に過ぎないでしょうに。」

父一人がどれほど生命を投げだして奉仕したって、ときがくれば重油タンクは爆発するわ。父は、自衛官でも、海上保安庁の役人でもないではありませんか。たとえ大阪湾が火の海になったとしても父の任務以外のことだわ。民間人である父一人の働きなんて、この大災害の前には、無益といっても言い過ぎではないのに、なぜ……。

わたしには、いま父が必要なんです。いまのわたしにとって父の存在は、パンくずを運ぶ蟻のようなものではない。父はわたしのすべてなのに、なぜ父はわたしへの愛や母への悔いをかなぐり捨てて、死に急ぐようなことを自分から進んでやらねばならないのでしょうか。父って、自分でも告白したように、本当は家族を愛せるような男ではなかったんだわ……」

あたりにみなぎる光は、オレンジから暗い臙脂にと色を変え、部屋の中で対座する老人と佳の姿を黒く巨大なものに盛りあげている。それは炎上する船の火勢が更に強まったことを証するものだろうか。時刻はすでに四時近く、濃くなってゆくガスと不吉な光にさえぎられて、白みはじめた空は見えない。

効火におののく街には、太古から約束された朝は訪ずれないのか。大気は、明け近くとおもえぬほどに熱氣をはらんでいた。

「結婚以来、母に対して決して心を傾けることのなかった冷たい父だったそうで、ずいぶん母を傷つけたらしいけど、わたしだけでは本当にやさしい父だった。でもいまは、わたしに向きあっていたときの父も信じられなくて……」

独白じみたつぶやきを続ける佳の前で、黙念としていた村重老人の唇がはじめてゆっくりと動いた。

「佳……、裕作やあなたのお母さんが呼んだように、私もあなたをそう呼んでよろしいかな？佳……、苦しかろうが、お父さんを許してあげてくれるように、私からもあなたに頼みまする」

と、老人の口到手荒く戸をたてるように、「許すとか許さないの問題じゃない。わたしに理解できないからいうんです。どうして、わたしは母に続いてすぐ、父さえも失わなければならないのでしょうか？パパは、わたしを本当に愛していたんでしょうか？！」

「愛していましたが、佳……。世界全部と天秤にかけても、裕作の心の計りでは、あなたの方に重みが掛った

のですじゃ。私と裕作が会っている間中、話題はいつも佳、あんたのことばかりじゃった……」

「だったら、どうして？」佳のせつかな問いを前に、村重老人はしばし瞑目した。

眼窩のあたりだけが黒ずんでいる老人の深い皺を刻んだ顔を見つめながら、佳のおもいはやはり六カ月前、この老人と偶然に出合った深夜の記憶へと還ってゆく。

あのとき奇妙に忘れたい印象を持ったこの老人に、佳は、父にさえも打明けることができなかった蘭子を葬る結果となった歌詩『せせらぎ』主幹へ密書を送った自分のいまわしい行為をもすてに話してしまっていた。

やがて目を開いた老人は、前にもましてゆっくりと言葉を区切って話しはじめた。その声は、目の前の老人のものとおもえぬ深く遠いところから響く声であった。佳たちを囲む邪悪な光の層の奥深くに姿を消した父、裕作が語りかけてくるに似た声で、

「佳、裕作は、あんたへの愛と亡き奥さんへの償いのために出掛けなければならなかったのだと私はおもいますのじゃ。お母さんの事件で、あの男はどれほど打ちのめされ、己れを卑しめていたことか。けれども、そんな苦しみの中で裕作の、やはり人間であり続けたいと願う心は、佳、娘のあんたは、どれほどつらくても理解してあげまさんと……。人間であることの誇りとみじめさのために、あの男は、燃える海に出掛けて行ったのですじゃ」

「え？」

佳は、言い終ってきつと唇を結んだ老人の顔を見つめた。この抽象的ではあるが、奇妙に断乎とした言葉――。

それは、いままでの館での母との閉ざされた生活や職場の人間関係の中には決してなかったものであった。これは、男たちだけが太古から長い時間をかけて守り育てた思念であり、言葉なのだろうか。

「佳、心が落ち着つくから、キリシタンの墓のそばに行きませぬか？」

しばらくして老人は立ち上り、やさしく佳をうながした。

地の上にみちる、すでに赤黒く色を変えた光の中に、墓石たちが黒く浮きあがっている。どの墓石も、拡大レンズを当てた虚像のように、巨大な姿で佇立し、影のようにはゆらめいている。

墓石の上を何か黒い鳥の形をしたものが飛び交っているように見え、奇妙な赤味を帯びた虚空が黒くゆらめく。海の炎に炙りだされた、異形のものたちが乱立するかと見える墓地のたたずまいは、太古の神仏の書が伝える末世の滅びの瞬間を佳に連想させた。

老人と佳は、あの早春の深夜と同じように墓地の片隅にある一基の石どうろの前に立ち、老人は再び自分に説くものように話しはじめた。その顔には強い生気がみなぎり、たいそう若々しく見える。

「荒木村重という戦国の武将の話を私は以前、佳に話しましたじゃろう。織田信長に謀叛を企てて破れ、己れ一人が城を落ちのびる途中この寺に立ち寄ったという伝説を話したはずじゃったが、一族郎徒ごとく信長に滅ぼされ、天蓋孤独の身をこの寺にかくし、妻子や家臣の菩提を弔うためにこのキリシタンの墓を建てましたそう。キリシタン信仰者としても知られる村重は、己れの罪の許しを乞い、祈りの日々を送ったと私はおもいますのじゃ。が、それ以後の村重の足どりで史実とは違う説がこの地に残っておりますのじゃ。村重は、当時、三木城を責めるかたわら有馬に湯治にきていた秀吉に保護され、のち秀吉の隠密となって働いたという伝説があるそう。私は、その伝説を、自分のために信じたいのですじゃ。荒木村重という武将にとつて、隠密という仕事は卑しい小さな仕事に過ぎぬ。が、その小さな仕事が積み重なって、秀吉の日本統一の覇業が成り、徳川三百年の平和な時代が万民の上に訪ずれた。城を失い妻子を虐殺された癒やすことのできぬ傷を持った村重であったが、何者かの意志に支えられて立ち上り、新しい歴史の形成





に参加してゆきましたのじゃ。人間としての生涯をまっとうしたのですて。私も、この寺にきて、やっと新しい自分の方向を探しあてましたのじゃ。生命ある限りですのじゃ。生命ある限り人は自分を他の人々の幸福のために献げる。それこそ人生をまっとうすることですて。それに、私には新しい仕事も与えられた。佳、私の目を見てくれませぬか。じっと、いつまでも見ていてほしいのじゃ」

佳が凝視する老人の目は燃えていた。うらぶれ、絶望し、虚無的になっていたかつての老人の瞳とはおもえぬ熱い炎が、老人の目の中にはあった。

「さ、佳、二人で跪いて祈りますのじゃ、かつて戦国の武將がこのキリシタンの墓に手を合わせて祈ったように、裕作が無事に帰ってくるようにとな。裕作が帰ってきたら、私は裕作の足りないところを補い、佳、あなたの人生の再出発のために自分の余生を献げますのじゃ。死んだ娘の由佳子にしてやれなかったことを、あなたにさして下され。佳、私はあなたの父親にも母親にもなれる頼りがいのある老人と思ってくれますかな？」

黙ってうなづく佳に、

「そして裕作が帰ってこなかったとき……」

老人は言いかけて凝然と立ちすくみ、佳もまた周囲に乱立する墓石と同じほどに硬直した。

「いや、祈ろう、佳、手を合わせるのじゃ……」  
いまわしい想念を振りはらうように老人は強くかぶりを振り、佳をうながした。

佳の心にしこっていた塊が黒い砂のようなものになってさらさらと流れだしてゆく。悲しみや汚れ、憎悪や呪詛のすべてがとどめようもなく、黒い砂になって流れだしてしまふのである。空しいといえは空しい。真空——しかしがらんだものではない。

この老人の前でると、父にむきあったときのように、変に泣きたくなるという経験は、黄色い薔薇の花を持って訪ずれた二度目の出会いのときに持った。そしていまは三度目、もう泣くことはない。ただ、生まれてこの方、一度も感じたことがないほどの空しい素直な気持ちになれるのは、何故か。佳は、老人にうながされるままに跪き目を閉じた。

戦国の世に、一人の男が絶望の底で磨きあげ、生命を与え祈った一基の墓石。キリシタンの墓。やがて、あまたの時代に生きる幾人かの男女が、やはり同じ姿勢で跪き、祈り、それぞれの絶望と悲嘆と怨念の極みから立ち上り、人々のもとに還っていったのではなかったのか。磨きあげた墓石は、人間存在の誇りとみじめさの象徴として、幾時代を越えてひそかに守られ、生き続けたのだ。

そしていま、一人の老人と娘が、同じ墓石の前でいつでも折る姿勢をくずさない。

すでに日は高く昇っている頃であろう。が、海からこの街に吹きつけてくる黒いガスに視界を閉ざされ、街は焼けただれる寸前のように溢血していて、たいそう熱い。

やがて祈り続ける二人の耳に、タンカーの油槽タンクが誘爆するらしい何度目かの爆発音が轟然と響き渡った。

(完)

オリジナル **L** サイズ

草履新発売

創業明治二十八年

# 履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

神戸三宮センター街 TEL(391)0256



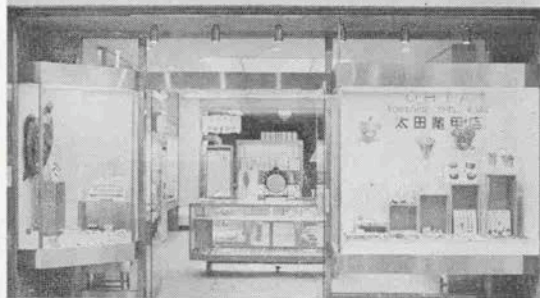
ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

## 三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

### SUMMER KOBE SHOPPING

## 太田鼈甲店



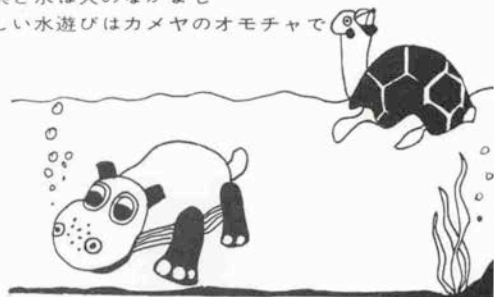
べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

## 太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195

子供と水は大のなかよし

楽しい水遊びはカメヤのオモチャで



おもちゃの

## カメヤ



三宮方面でのお買物は……  
 さんちか店 ファミリータウン 084045  
 三宮店 三宮センター街山側 084969  
 元町方面でのお買物は……  
 元町店 元町通3丁目山側 080090  
 パンプウ店 元町通1丁目不二家前 080768

やっばりうまい  
むさしのとんかつ

とんかつ

ヨシサミ  
ムサシ

でんわ・

321 321 331  
— 〇六三三  
— 〇六三七  
— 〇六三五

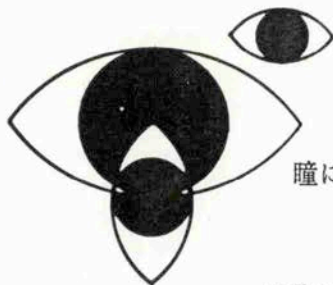
高級紳士服専門店

神戸テラー



さんちかメンズタウン TEL (391) 0388  
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL (331) 2817・3173

# SUMMER KOBE SHOPPING



瞳に美しさを保つ  
スポーツに  
美容に  
現代の科学が生んだ  
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)  
神戸国際会館内 TEL (251) 8161・(231) 2570

おすし  
てんぷら



栄  
彌



本店 大丸前・三宮神社東  
TEL (331) 5772  
(毎週水曜日休み)  
支店 さんちか味ののれん街  
TEL (391) 5233  
(第3水曜日休み)

営業時間  
A.M. 11.30 ~ P.M. 9.00

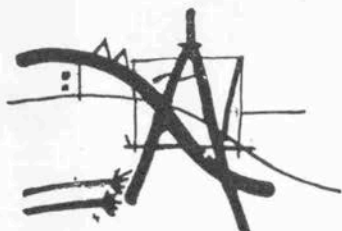




Mr. Kent  
came to Kobe  
流行に左右されない  
本来のオシャレ  
それがKentです  
シックな  
スコッチ風の店舗  
それがFunakiyaです

Kent shop  
**フナキヤ**  
元町 3 TEL(321)0356

## 額縁絵画・洋画材料 室内工芸品



**末 積 製 額**

三宮・大丸北  
トア・ロード  
331-1309・6234

## 山と海の街 KOBEの ヒューマンなモダンな住い

高級分譲  
マンション

**シャ-野崎**

●分譲  
受付中

完成予定  
昭和48年3月中旬



建築確認番号 第(272)号

完成予想図(南面)

都心の便利さ★豊かな環境★充分な設備

所在地 ▶神戸市葺合区野崎通8丁目17番地  
通 ▶市バス熊内橋通1丁目まで徒歩2分  
規模 ▶鉄筋コンクリート造地下1階・地上7階建54戸  
価 格 ▶総額880万円(2戸)〜1,160万円  
敷地面積 ▶約1,065.76m<sup>2</sup>  
建築面積 ▶約741.70m<sup>2</sup> 延床面積 ▶約5,248.65m<sup>2</sup>  
専有面積 ▶56.20m<sup>2</sup>(2戸)〜88.88m<sup>2</sup>(パルコニー含まず)  
管理費 ▶月額3,930円〜6,210円(予定)

●大阪ガスのセントラルヒーティング付(46戸)販売済のものもありますので、くわしくは、資料を御請求下さい。

モデルルーム(お申込みはモデルルームでお受けいたします)

所在地 ▶神戸市葺合区八雲通1丁目4番地(山田工務店内)  
公開時間 ▶AM10:00〜PM5:00

●お申込み・お問い合わせ

兵庫県知事免許(1)第3543号

直 売 **甲南興産株式会社**

〒650 神戸市生田区桶町6丁目10 電話(078)341-6431(代表)

\*日曜・祝日も営業しております

\*大阪ガス住宅情報センター(サンチカタウン)にもパンフレットを置いております。

Tea & Coffee

## R O O M

阪急六甲駅山側シャトー六甲1F

tel : 841-4 5 3 1



“ルーム”は赤と青の張り出したテント屋根がめじるし。トビラを開けると、あちこちに可愛いパンダのぬいぐるみ。サイフォンコーヒーのいい香り、清水焼の土鍋に入ったカレー、鉄板で料理するスパゲティなど、他では真似のできないものばかり。近くに神戸大学をひかえていることもあり、お客さんには学生の姿が多く見られるが、もちろん年輩のファンも多い。「安くておいしい、と喜ばれます」とママの岩本さん。気軽に楽しめる、いい店です。

コーヒー・紅茶 ¥130、オールド ¥300

カレー ¥150、スパゲティ ¥200

営業時間 AM10:00~PM10:00 年中無休



## COFFEE BREAK

Coffee & Snack

## ジャーニー

再度筋町バス停前山手短大西100M

tel : 341-3 1 2 1



ロマンを求め未知の国へ行こうと計画しているあなた！  
自動車、オートバイで世界の広野に冒険を求める君、ジャーニーのドアをあけると夢や計画が一步前進することは間違いなし。世界を車やオートバイで走り、航空会社に勤めていた若いママがコンサルタント。壁には“旅”のパネル、階段をあがれば本棚に資料がいっぱい。ウィークエンドになれば若い人々があつまって“旅”について語りあう。ジャーニーには旅のインフォメーションがあふれています。  
神戸海外ドライブクラブ会員募集中（会費無料）

コーヒー ¥120、ビール ¥180、フルフル ¥180

営業時間 AM9:00~PM10:00（日曜日は休み）

